

## (財) 自治体国際化協会 ロンドン事務所 マンスリートピック (2013年7月)

【英国における MICE の最新情報 ～ 経済成長の担い手として期待されるビジネスイベント】

英国での MICE の現状 ～ 「発展途上」の分野だが、重要性への認識は高まる

「MICE(マイス)」とは、「Meetings, Incentives, Conventions and Exhibitions/Events」の頭文字を取った言葉であり、日本の観光庁のウェブサイトでは、「企業等の会議(Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行(インセンティブ旅行)(Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議(Convention)、展示会・見本市、イベント(Exhibition/Event)の頭文字のこと。多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称<sup>1</sup>と定義されている。英国において、MICE 市場は、外部から訪れる訪問客が地域の経済成長に果たす役割に対する人々の認識が高まるのと並行して、発展を遂げてきた。

英国では、MICE に関する入手可能なまたは信頼に足るデータが不足しており、学者からも、また実際にこうしたビジネスイベントの開催に関わる人々からさえも、MICE は「発展途上の分野」であると見なされている。しかし、英国の国際競争力の向上、そして都市と地域が訪問者にとっての価値を高める必要性が議論される際、「ビジター・エコノミー(visitor economy)」<sup>2</sup>そしてより広くは英国の地域経済及び国内経済における MICE の役割は、ますます重要なテーマになってきている。

とは言え、英国において、地域経済振興に MICE が果たす役割は、その重要性に対する認識が高まってはいるものの、まだ今後発展の余地を残している。その背景には特に、MICE の誘致・開催支援業務に必要なスキルが、経済振興に関するその他の業務で必要とされるスキルと異なることなどがある。また、MICE に関する業務は、自治体が直接行うのではなく、自治体と民間企業とのパートナーシップで運営されている専門のエージェンシー(執行機関)<sup>3</sup>が手掛けているため、自治体のその他の業務との連携が十分ではないケースが少なくないという事情もある。

実際に官民で地域経済振興に携わる人々の間でさえも、MICE はしばしば、専門家が手掛ける「堅い」業務分野というよりは、より周延的なサービス産業または「ホスピタリティ産業」<sup>4</sup>に属する分野であると見なされている。こうした現状を受け、MICE の誘致や支援業務に従事する人々は近年、英国及び英国内の都市を会議等ビジネスイベントの開催地としてより効果的に海外の企業や団体

<sup>1</sup> <http://www.mlit.go.jp/kankochu/shisaku/kokusai/mice.html>

<sup>2</sup> 英語の「visitor economy(ビジター・エコノミー)」とは、観光のみならず、ビジネス目的の滞在や親類や友人の訪問など、地域または国へのあらゆる形態の訪問によって形成される市場を指して使われる言葉である。

<sup>3</sup> 後述する「デスティネーション・マネジメント団体(DMOs)」を意味する。

<sup>4</sup> 「ホスピタリティ産業」とは、ホテル、レストラン、娯楽施設やイベント運営などの業種の総称として使われる言葉である。

に売り込むことで、公共部門が高い投資利益率(Return On Investment、ROI)を達成できることを強調している。

そうした努力はあれど、実際は、公共部門の職員の間でさえ MICE の定義は正しく理解されていないというのが現状であり、自治体やそのエージェンシーの多くは、「MICE」よりも「ビジネスツーリズム(business tourism)」<sup>5</sup>という言葉が好き、地域のマーケティングや「ビジター・エコノミー」に関する戦略で使用している。

### MICE 市場の拡大を目指す自治体 ～ スタッフォードシャー県の例

英国では、過去 15 年ほどの間、とりわけ大都市にとってのビジネスツーリズムの重要性に対する認識が高まってきたことを受け、幾つかの自治体が、MICE の会場として利用できる大規模な施設の整備に投資を行った。これらの施設の多くは、特に海運業の衰退で使われなくなっていた元港湾地区に建設された。都市部にこのような大規模な施設が誕生して以降、それまで伝統的に海岸沿いの地域で行われていた主要政党の秋の党大会は、リバプール市やマンチェスター市、バーミンガム市などの大都市で開催されるようになった(その結果、これらの海岸沿いの地域は、閑散期の貴重な収入源を失うことになった)。今や、より小規模な都市でさえも、ビジネスツーリズムの成長が地域経済にもたらす利益を認識し、自らを、「観光客向けの歴史的建造物などの観光名所には欠けるかもしれないが、企業や団体が会議等のビジネスイベントを開催できる施設を備え、またそれら施設の近くでは、活気あるナイトライフが楽しめる」という「非伝統的な訪問先(non-traditional destination)」として売り込もうと務めている。

イングランドでは、現政権によって地域開発公社(Regional Development Agencies、RDAs)<sup>6</sup>が 2012 年に廃止された結果、RDAs が資金を提供していた「地域観光委員会(regional tourist boards)」の大半が閉鎖に追い込まれた。それ以降、ビジネスツーリズムに関する広報・宣伝等の業務は、自治体が行うか、自治体または「地域産業パートナーシップ(Local Enterprise Partnerships、LEPs)」<sup>7</sup>、またはその両方から資金を提供されている「デスティネーション・マネジメント団体(Destination Management Organisations、DMOs)」によって行われている。「デスティネーション・マネジメント団体」とは、地域のマーケティング活動を行う組織を指す用語である。「デスティネーション・マネジメント団体」には、◎MICE 誘致を行う「コンベンション・ビューロー(convention bureau)」としての役割と、観光局(tourism agency)及び対内投資促進機関(inward investment agency)としての役割を兼ねるもの、◎コンベンション・ビューロー及び観光局としての

<sup>5</sup> 英語の「business tourism(ビジネスツーリズム)」とは、MICE への出席など、仕事を目的とする海外及び国内の地域への訪問、及びそうした訪問のためにサービスを提供する事業活動を意味する。

<sup>6</sup> 前労働党政権が、ロンドンを含むイングランドの 9 地域で、地域の経済成長支援を目的として設置した組織。保守党と自由民主党の連立政権である現政権は、2010 年 5 月の政権発足直後に同組織の廃止を決めた。

<sup>7</sup> LEPsとは、地域の経済開発促進を担う自治体と企業のパートナーシップである。地域開発公社の後継組織として、現政権の方針でイングランド各地に設置されている。

役割を兼ねるもの ◎コンベンション・ビューロー及び対内投資促進機関としての役割を兼ねるものがある(最後の例の場合、観光局は別の組織として設置されている)。

下記の表は、イングランドの9つの大都市の「デスティネーション・マネージメント団体」と、それら都市で MICE の開催場所として利用されている大規模施設をまとめたものである。

都市名	デスティネーション・マネージメント団体	施設名(括弧内は開館年)
バーミンガム市	マーケティング・バーミンガム (Marketing Birmingham)	国際会議センター(International Convention Centre)(1991年) ナショナル・エキシビション・センター(National Exhibition Centre)(1976年)
ブリストル市	ビジット・ブリストル(Visit Bristol)	現在までのところ、このような施設は整備されていないが、現ブリストル市長によって建設が計画されている。
リーズ市	リーズ・アンド・パートナーズ (Leeds and Partners)	リーズ・アリーナ(Leeds Arena)(2013年)
リバプール市	ビジット・リバプール (VisitLiverpool)	アリーナ会議センター(Arena and Conference Centre)(2008年)
ロンドン	ロンドン・アンド・パートナーズ (London and Partners)	エクセル・ロンドン(ExCel London)(2000年)
マンチェスター市	ビジット・マンチェスター(Visit Manchester)	マンチェスター・セントラル(Manchester Central)(1986年) (2007年に「ジー・メックス(G-MEX)」から改称)
ニューカッスル・ア ポン・タイン市	ニューカッスル・ゲーツヘッド・ イニシアティブ (NewcastleGateshead Initiative)	セージ・ゲーツヘッド(Sage Gateshead)(2004年)
ノッティンガム市	エクスペリエンス・ノッティンガ ムシャー(Experience Nottinghamshire)	ノッティンガム会議センター(Nottingham Conference Centre) (2010年)
シェフィールド市	マーケティング・シェフィールド (Marketing Sheffield)	シェフィールド・モーターポイント・アリーナ(Sheffield Motorpoint Arena)(1991年)

観光やビジネス等を目的とする訪問客の誘致は、法律で自治体に実施が義務付けられている業務ではない。そのため、現政権の緊縮財政の結果である自治体の予算削減の影響を受けやすい分野であり、「デスティネーション・マネージメント団体」が、地域経済成長に関するその他の業務を担う自治体のエージェンシーと統合されるケースも見られる。

しかし、ビジネスツーリズムが地域経済にもたらす恩恵は広く認識されており、例えば、イングランド・ウェストミッドランズ地方のスタッフォードシャー県が策定した 2012～2014 年の「ツーリズム戦略 (Tourism Strategy)」には、同県の目標として下記が掲げられていた。

- ・スタッフォードシャー県におけるビジネスツーリズムの市場規模を引き続き拡大させ、2011 年の 6 億 4600 万ポンド (推定) から、2014 年には 7 億 2900 万ポンドへと、13% の増加を目指す。

- ・ビジネスツーリズムの分野における雇用を拡大させる。ビジネスツーリズムに直接関係する業種<sup>8</sup>での雇用数を、2010 年の 12,582 件 (推定) から、2014 年には 13,588 件へと、8% 増加させることを目指す。

このようにビジネスツーリズムの拡大を目標として掲げる一方で、同戦略文書は、同県の「デスティネーション・スタッフォードシャー (Destination Staffordshire)」が、地域開発公社が廃止されて以降、ウェストミッドランズ地方で唯一残っている「デスティネーション・マネージメント団体」であることを指摘していた。「デスティネーション・スタッフォードシャー」が現在も存続できている理由としては、EU 及び英国政府からの補助金獲得に成功していること、また、同団体が、同団体の会員となっている企業や組織<sup>9</sup>から、明白な経済的利益をもたらす安定した官民のパートナーシップとして認識されていることなどを挙げている。

同文書はさらに、「デスティネーション・スタッフォードシャー」が現在、必要と思われる組織構造の再編成を行っていることに言及している (同団体には現在、スタッフォードシャー県から 5 人の職員が派遣されている)。しかし同時に、◎スタッフォードシャー県の経済成長支援を目的とするその他の業務 (対内投資など) との連携に欠け、独自に業務を行っている ◎スタッフォードシャー県及び同県のその他のパートナー組織と足並みをそろえた統一的な地域ブランド戦略に欠ける——などの点を、「デスティネーション・スタッフォードシャー」の問題点として挙げていた。こうした点を考慮した上で、同文書は、「デスティネーション・スタッフォードシャー」が、「スタッフォードシャーを楽しもう (Enjoy Staffordshire)」<sup>10</sup>との標語のもと、スタッフォードシャー県とストーク・オン・トレント市<sup>11</sup>の両自治体の職員で構成される対内投資担当チームと協力のうえ、ビジネス目的の訪問客を対象とするマーケティング活動を行うことを提案している。

<sup>8</sup> ホテル等、ビジネス目的の訪問者が来ることによって直接恩恵を受ける業種を意味する。

<sup>9</sup> 「デスティネーション・スタッフォードシャー」は、ホテル、レストラン、イベント企画会社等が会員となり、会費を払うシステムを採用している。

<sup>10</sup> 「スタッフォードシャーを楽しもう」は、「デスティネーション・スタッフォードシャー」が同地域のマーケティングで既に使用している標語である。

<sup>11</sup> ストーク・オン・トレント市は、地理的にはスタッフォードシャー県の内部に位置するユニタリー (一層制の自治体) である。自治体の構造上、同県の下に位置する基礎自治体ではない。

## スコットランドで MICE 誘致支援のファンドが設置、既に大きな成果

2012 年 3 月、スコットランドの観光推進を担う公的組織である「ビジット・スコットランド (VisitScotland)」は、スコットランド内の地域による MICE の誘致を支援し、それら地域に助成金を支給することを目的として、3 年間に期間を限定した「会議誘致助成金ファンド (Conference Bid Fund)」を設置することを発表した。「ビジット・スコットランド」のウェブサイトによると、同ファンドの狙いは、国際的な MICE 市場におけるスコットランドの競争力を高めることであり、スコットランドが特に専門的知識を有する工業、商業、科学、医学の分野で、収益性の高い MICE を誘致することを支援する。同ファンドの財源には、「ビジット・スコットランド」が 3 年間で 200 万ポンドを提供し、スコットランド内の地域からも同額が拠出される。

「ビジット・スコットランド」は続いて 2012 年 11 月、「会議誘致助成金ファンド」の設置から最初の 6 ヶ月間で、スコットランド内の地域が、2013～2020 年に開催される計 18 の MICE を誘致することに成功したことを明らかにした。この 6 ヶ月間に同ファンドに投資された公的資金は 100 万ポンドを超えるが、これら 18 の MICE がもたらす利益は 5600 万ポンドに上ると推定される。「ビジット・スコットランド」によると、このことは、同ファンドへの公共部門からの投資 1 ポンドにつき、53 ポンドの利益が見込まれることを意味する。

さらに 2012 年 6 月に「ビジット・スコットランド」が明らかにしたところによると、スコットランド内の地域の中で、同ファンドの設置によって多くの大規模な MICE の誘致に成功した最初の都市はグラスゴー市であった。グラスゴー市は、同ファンドの支援を受け、7 つの国際会議または国内会議 (国内の団体のみが参加する会議) の誘致に成功した。これら会議の開催年は、最も先のもので 2020 年であり、7 つの会議を合わせて世界中から計約 17,000 人の人々がグラスゴー市を訪れると予測される。会議参加者のグラスゴー市内のホテルでの宿泊数は合計約 80,000 泊に達すると見込まれ、7 つの会議が地域経済にもたらす恩恵は 2700 万ポンドに上ると推計される。

これら 7 つのイベントには、「王立小児科学・子供の健康学会 (Royal College of Paediatrics and Child Health)」の会議や、「英国の再生可能な沖合風力発電に関する会議 (Renewables UK Offshore Wind Energy Conference)」、「世界バイオマテリアル会議 (World Biomaterials Congress)」などが含まれる。「ビジット・スコットランド」は、グラスゴー市が、「東京、サンフランシスコ、パリ、ロンドン、リスボン、ウィーン、コペンハーゲン、ヨーテボリなどの世界の主要な会議開催都市との熾烈な競争を勝ち抜き」、これらの会議の招致に成功したと述べている。

「ビジット・スコットランド」によると、ビジネスツーリズムのスコットランド経済への貢献は年間 8 億ポンドを超えており、ビジネス目的でスコットランドを訪れる人の 1 日の消費額は観光客の 1.5 倍に上る。また既に、グラスゴー市内のホテルの宿泊数の 20% は、MICE への出席者によるものが占めて

おり、こうしたビジネスイベントの同市の経済に対する重要性を裏付けている。

なお、グラスゴー市の MICE 誘致業務を担うデスティネーション・マネージメント団体は「グラスゴー市マーケティング・ビューロー (Glasgow City Marketing Bureau, GCMB)」であり、同団体は 2013 年 3 月、「ミーティング・アンド・インセンティブトラベル (Meetings & Incentive Travel)」誌が選ぶ「英国最優秀コンベンション・ビューロー賞」を 7 年連続で受賞した。

また、2013 年 7 月に発表された調査で、2011 年に MICE 市場が生み出した粗付加価値額 (Gross Value Added, GVA)<sup>12</sup>は、スコットランド内だけで約 19 億ポンドであったことが明らかにされた。この調査は、MICE 市場による英国経済への貢献を分析したこれまでで最も大規模な調査であり、「会議運営専門家国際財団 (Meeting Professionals International (MPI) Foundation)」の依頼で、「イベント・ツーリズム・ホスピタリティ国際調査センター (International Centre for Research in Events, Tourism and Hospitality, ICRETH)」とリーズ都市大学が実施した。調査結果は、「英国の会議・イベント産業の経済への影響 (The Economic Impact of the UK Meeting & Event Industry)」と題する報告書として発表された。報告書ではまた、英国全体で見ると、2011 年に MICE 産業が生み出した GVA は農業の約 3 倍に上り、また法務サービスや放送業などの分野を上回ったことが明らかにされた。

#### 市長が設置したロンドンのマーケティング組織「ロンドン・アンド・パートナーズ」

2012 年 1 月、ボリス・ジョンソン・ロンドン市長は、ロンドン市議会において、MICE の会場として利用できる施設のロンドンでの整備状況について、次のように述べた。

「世界の MICE 市場の市場規模は数千億ポンドに上り、力強い成長の見込みがある。海外からビジネス目的でロンドンを訪れる人々は、既にロンドンへの訪問者全体の 19%を占めており、彼らのロンドン滞在中の消費額は、訪問者全体の消費額の 26%にも上る。つまり、MICE 市場の成長は、ロンドン経済にとって非常に重要である。ロンドンには、MICE を開催できる会場が 1000 以上ある。また、エクセル・ロンドンが近年増築されたことにより、ロンドンは世界トップレベルの国際会議場を獲得し、参加者 30,000 人までのより大規模な国際会議の招致を試みる事が可能になった。このことは、ロンドン経済に更なる価値をもたらすものである」

このようにジョンソン・ロンドン市長は、ロンドンの MICE の受け入れ能力について楽観的な見方を示した。しかし、ロンドンの「デスティネーション・マネージメント団体」である「ロンドン・アンド・パートナーズ」の幹部職員は 2013 年 4 月、ロンドン市議会に出席し、特に収容人数が 2000 人程度の

<sup>12</sup> 英国の国立統計局 (Office for National Statistics, ONS) によると、GVA とは、「単一の産業や地域による経済への貢献を測定する」指標である。国内総生産 (GDP) と GVA の関係は、GVA に租税を加算し、更に補助金を引いたものが GDP である。

中規模な MICE 向けの施設が不足しているなど、まだ課題は残っていると指摘した。同時に、「国際会議協会(International Congress and Convention Association、ICCA)」が毎年発表している世界の都市別国際会議の開催件数ランキングで、ロンドンの順位が2008年の19位から2012年には6位にまで上昇した背景には、「ロンドン・アンド・パートナーズ」がMICEに特化した戦略を導入したことがあると指摘し、5年以内に、ロンドンが同ランキングで3位以内に入ることを目指すと述べた。

なお、2012年版のこのランキングの1位はウィーン、2位はパリ、3位はベルリンだった。アジアの都市では、シンガポールが6位、北京が13位、バンコクが16位、ソウルが17位に入った。日本の都市で最も上位だったのは東京で31位にランクされ、他には京都が36位、福岡が97位、神戸が100位だった。

\* \* \*

MICE 関連の企業の代表団体等が所属する組織である「ビジネス関連訪問・イベント・パートナーシップ(Business Visits and Events Partnership、BVEP)」が2010年に発表した文書によると、英国のMICE市場の市場規模はおよそ250億ポンドであり、53万人以上がこの業界で雇用されている。MICE市場がこのように拡大しているからこそ、ロンドンで毎年開催される「国際コンフェックス(International Confex)」や、海外で行われる同様のイベントである「IMEX フランクフルト(IMEX Frankfurt)」、「EIBTM」、「IMEX アメリカ(IMEX USA)」など<sup>13</sup>に参加し、大規模なMICEを誘致することが「ロンドン・アンド・パートナーズ」にとって極めて重要になっている。

「ロンドン・アンド・パートナーズ」は、2011年、ジョンソン・ロンドン市長が官民のパートナーシップとして設置した非営利団体であり、ロンドンの公式なコンベンション・ビューローでもある。同団体が手掛ける業務の一つは、国内及び海外のインセンティブ旅行の主催者に対し、それぞれの希望に合わせた一連のサービスを提供することである。これらのインセンティブ旅行の主催者とは、従業員にインセンティブ旅行を提供する企業、またはそうした企業のためにインセンティブ旅行を企画・提供する旅行会社などであり、特に最近ではアジア諸国の大手企業が増えている。「ロンドン・アンド・パートナーズ」は例えば、インセンティブ旅行の主催者を、ロンドンのホスピタリティ業界の業者(ホテル、レストラン、ケータリング業者、イベント企画会社など)に紹介する。「ロンドン・アンド・パートナーズ」は、同団体が紹介するホスピタリティ業界の業者は、ロンドンの名所でのイベントをスケジュールに組み込むことなどにより、旅行日程中を通して、参加者が質の高いサービスを受けることができるよう計らうと述べている。

「ロンドン・アンド・パートナーズ」はまた、会議主催団体と協働し、ロンドンにより多くの会議を誘致するための活動を行っている。例えば、会議主催団体をロンドン内の会議施設に紹介するほか、

---

<sup>13</sup> これらのイベントはいずれも、MICE見本市であり、「デスティネーション・マネージメント団体」のほか、ホテル、旅行会社、航空会社などがブースを出展し、国際会議やインセンティブ旅行の主催者に対してPR活動を行う。

ロンドンの観光名所や娯楽施設への訪問などを盛り込んだ、会議に出席すると同時にアクティビティも楽しめる包括的なパッケージを企画するなどしている。

「ロンドン・アンド・パートナーズ」のより最近のニュースとしては、2012年11月、スペイン・バルセロナで開催された MICE 見本市「EIBTM」で、ロンドンのマーケティング・キャンペーン「イマジン・ロンドン (Imagine London)」を立ち上げたことがある。同イベントでは、ロンドン内の会議施設やホテル等が「ロンドン・アンド・パートナーズ」のブースで展示を行い、PR 活動を展開した。参加した施設等には下記などが含まれていた。

- ・エクセル・ロンドン
- ・エリザベス 2 世女王会議センター
- ・トウィッケナム・スタジアム
- ・「ヒストリック・ロイヤル・パレス」(ロンドン塔など現在は住居として使用されていない国内 5 つの王宮を管理する慈善団体)
- ・アーセナル及びチェルシー(共にロンドンを拠点とするサッカーチーム)
- ・ローズ・クリケット・グラウンド(ロンドン北部のクリケット場)
- ・王立内科医協会
- ・「ドーチェスター・コレクション UK」(高級ホテルグループ)
- ・「ウインダム・グラント・チェルシー・ハーバー」(ロンドン西部の高級ホテル)